

第 5 章

ロシア国外の反体制派—ユリア・ナワリナヤ

法政大学法学部教授 油本真理

ウクライナ侵攻の開始後、プーチン政権に異議を唱えることはロシア国内ではほぼ不可能となり、その拠点はロシア国外に移った。こうした運動は現在どのような状況にあるのだろうか。本稿では、国外の反体制派の中でも目立つ存在であるユリア・ナワリナヤに焦点を合わせ、彼女の活動内容と現在の課題について論じる。

ユリア・ナワリナヤはロシアの反体制派活動家、そして政府高官の汚職の告発などを行う反汚職基金のリーダーとして知られたアレクセイ・ナワリヌイの妻である。彼女はナワリヌイと行動を共にしていたが、彼が収監された 2021 年以降はドイツに拠点を移した。彼女自身が政治の表舞台に出るようになったのはナワリヌイが獄中で死亡したことがきっかけだった。そのわずか 2 日後、2024 年 2 月 18 日に公開された動画において、彼女は夫の仕事を継続することを表明した¹。同年秋の英公共放送 BBC によるインタビューでは、ナワリナヤは「時が来れば選挙に候補者として参加するだろう」と述べ、大統領選に出馬する可能性にも言及している²。

ナワリナヤは夫の死が明らかになった直後から国際的な注目の的となった。そもそも、彼女はナワリヌイ死亡の第一報が出た 2024 年 2 月 16 日にミュンヘン安全保障会議に参加しており、急遽登壇して「プーチンは責任を取らなければならない」と発言したことで話題となった。2 月 28 日にはヨーロッパ議会で演説を行い、「犯罪ギャング」であるプーチンと闘わねばならない、プーチンはロシア、平和な隣国、そして自らの夫にしたことに対して責任を取らねばならない、と訴えた³。国際会議での講演はその後ナワリナヤの活動の柱となっている。彼女はタイム誌の「今年の人」（2024 年）のショートリストにも選ばれるなど⁴、その国際的な認知度は向上している。

また、彼女は反汚職基金の枠にとらわれない活動を行っている。2024 年 7 月には「人権擁護財団」の会長に選出された⁵。さらに、8 月に囚人交換が行われ、ロシア国内で収監されていたイリヤ・ヤシン、ウラジーミル・カラ＝ムルザらがヨーロッパに拠点を移して以降は、ナワリナヤは彼らとも歩調を合わせるようになった。彼らは共同でコラムを執筆したほか⁶、デモの呼びかけも行っている。実際に、2024 年 11 月と 2025 年 3 月にはドイツのベルリンにおいて抗議運動が実施され、国際的にも注目を集めた。

ナワリナヤのプロジェクトの中でも注目に値するのが「ロシアの未来のプラットフォーム」である⁷。2024 年 11 月にはヴァリニウスにおいて同プロジェクトの会議も開催された。このプロジェクトは未来のロシアのあるべき姿について考えようとするもので、今のところ具体的な綱領や会議内容のとりまとめなどは公表されていないものの、各分野の専門家らが参加して活発な議論が行われたことが報告されている。夫のナワリヌイがしばしば言及していた「自由で民主的なロシア」については具体性の欠如が指摘されていたが、様々な分野の専門家の助けを得ながらその内容を策定することは、幅広い在外反体制派を組織するという観点からも、また、今後ロシアの政治体制が大きく変化した場合のシナリオを作っておくという観点からも有意義な試みと評価できる。

しかし、その活動には大きな限界が伴っていることも指摘しなければならない。目下の課題として挙げられるのが、在外反体制派の中での立ち位置をどう確立するかという問題である。在外反体制派の中では、2013 年に恩赦で釈放された後、スイスを経てイギリスに移住したミハイル・ホドルコフスキーが一大ネットワークを築いてきた⁸。反汚職基金は在外反体制派としては「新参者」であり、ホドルコフスキー陣営を超える影響力は持っていない。さらに、両者の間にはそれ以前から意見の相違があり、2024 年に入ってから、反汚職基金が発表した動画『裏切り者』⁹や 2024 年 3 月にリトアニアで起きたレオニード・ヴォルコフ（反汚職基

金メンバー) 襲撃事件の真相究明¹⁰をめぐる対立が深まっている。こうした在外反体制派の分裂および対立の激化はナワリナヤの活動にもネガティブな影響を与えている¹¹。

また、ナワリナヤは在外反体制派であるがゆえの発信の難しさにも直面している。彼女の主張はロシア国内の反プーチン派と共鳴する可能性があるが、国内での活動が不可能であること、さらに「夫の死を利用して目立とうとしている」といった政権によるネガティブキャンペーン¹²などによって訴求が阻害されている¹³。他方で、国際社会向けのアピールも万全ではない。他の在外反体制派と同様、彼女もまた、今般の侵攻の責任はプーチンにあり、ロシア国民に責任はないと主張する。しかし、このような立場に対してはロシアの帝国主義的な行動の責任を矮小化しているとの根強い批判がある¹⁴。それに加え、ナワリナヤは、侵攻反対の立場は表明しているが、ウクライナの人々への共感が薄いといった点でも批判されている¹⁵。

ここまで明らかにしてきた通り、ナワリナヤは、夫の獄中死という悲劇的な出来事を受けて例外的に大きな注目を集めたものの、在外反体制派内での主導権争いや伝え方の難しさにも直面している。最近は国際社会に対するアピールを活動の中心とする在外反体制派と一般のロシア人の間の感覚のずれも顕在化するようになっており¹⁶、その舵取りはますます難しくなることが予想される。それでも、彼女がロシア国内外において相当の知名度を有していることは無視できない重みをもつ。それが国外の反体制派、そして国内政治にどのような影響を与えるか、今後も注視していく必要がある。

¹ “I will continue Alexei Navalny's work”, Алексей Навальный (YouTube), 18 февраля 2024 г., https://www.youtube.com/watch?v=RIrYWhjdK_o&t=1s (最終アクセス日: 2025 年 5 月 12 日。以下同様)

² Katie Razzall and Daniel Fisher, “I’ll stand for Russian president when Putin’s gone, Navalny’s widow tells BBC,” BBC, October 21, 2024, <https://www.bbc.com/news/articles/ce3z4ydk90vo>.

³ Verbatim report of proceedings, February 28, 2024, European Parliament, https://www.europarl.europa.eu/doceo/document/CRE-9-2024-02-28-ITM-006_EN.html.

⁴ “Who Will Be TIME’s Person of the Year for 2024? See the Shortlist,” Time, December 9, 2024, <https://time.com/7200122/person-of-the-year-2024-shortlist/>

⁵ 人権擁護財団 (<https://hrf.org/>) は 2005 年にアメリカで設立された非営利団体で、独裁国家に焦点をあて、人権や民主主義を守る活動を展開している。前任は同じくロシアで反政権活動を行ってきたガリリ・カスパロフであった。

⁶ “We’re Russian. We know what happens when Big Tech coddles dictators,” Washington Post, February 3, 2025, <https://www.washingtonpost.com/opinions/2025/02/03/kara-murza-navalnaya-yashin-dictators-tech/>.

⁷ 現在はナワリナヤのサイト (<https://yulianavalnaya.com/>) がこのプロジェクトのサイトとしても機能している。

⁸ Margarita Zavadskaya and Mikhail Turchenko, “The Russian opposition in the eyes of Russians in Russia and abroad: Mikhail Khodorkovsky,” Riddle Russia, February 3, 2025, <https://ridl.io/the-russian-opposition-in-the-eyes-of-russians-in-russia-and-abroad-mikhail-khodorkovsky/>.

⁹ 『裏切り者』は 2024 年春から反汚職基金の YouTube で公開が始まったドキュメンタリー動画のタイトルで、プーチンが権力を握るまでの過程を明らかにしている。そこでは 1990 年代のオリガルヒについても紹介されており、ここで言及されたホドルコフスキーは否定的な反応を示した。

¹⁰ 反汚職基金はヴォルコフの襲撃にはホドルコフスキーと近いレオニード・ネヴズリンが関わっていると発表した。捜査の情報源などをめぐっても論争が巻き起こった。

¹¹ ナワリナヤが「ロシアの未来のプラットフォーム」のイベントとしてリトアニアで実施した 2024 年 11 月の会議の際にはホドルコフスキー陣営もドイツで大きな会議を実施した (Roman Goncharenko and Daniil Sotnikov, “Will Russia's opposition show a united front in Berlin?,” Deutsche Welle, November 16, 2024, <https://www.dw.com/en/will-russias-opposition-show-a-united-front-in-berlin/a-70798672>)。

¹² «Такое чувство, что она ждала этого события все эти годы» — Медведев о Юлии Навальной после ее слов о планах продолжить дело убитого мужа, Медиазона, 22 февраля 2024 г., <https://zona.media/news/2024/02/22/mdvdv>.

¹³ 2024 年 12 月にロシアで実施された世論調査によると、ナワリナヤの知名度は野党政治家の中ではロシア連邦共産党党首のゲンナジー・ジュガーノフに次ぐ高さだったが、同時に不支持率も高かった（「支持する」が 5%、「支持しない」が 53%）。«Отношение к российской оппозиции: наиболее яркие фигуры, рейтинг и антирейтинг оппозиционных политиков», Левада центр, 11 декабря 2024 ., <https://www.levada.ru/2024/12/11/otnoshenie-k-rossijskoj-oppozitsii-naibolee-yarkie-figury-rejting-i-antirejting-oppozitsionnyh-politikov/>.

¹⁴ Andrew Chakhoyan, "Opinion: The Russian opposition needs to stop blaming Putin and start confronting Russia's violent imperial legacy," Kyiv Independent, October 15, 2024, <https://kyivindependent.com/opinion-the-russian-opposition-needs-to-stop-blaming-putin-and-start-confronting-russias-violent-imperial-legacy/>.

¹⁵ Анна Розэ, «Не флаги, а люди. "Большая антивоенная демонстрация" в Берлине», Радио Свобода, 31 октября 2024 г., <https://www.svoboda.org/a/ne-flagi-a-lyudi-boljshaya-antivoennaya-demonstratsiya-v-berline/33182431.html>.

¹⁶ Matthew Blackburn and Ekaterina V. Klimenko, "The exiled anti-Putin opposition and the question of democratic representation," Russia File, Kennan Institute, January 14, 2025, <https://www.wilsoncenter.org/blog-post/exiled-anti-putin-opposition-and-question-democratic-representation>.